

学校経営推進費評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立箕面高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	海外トップ大学への進学実績・国公立大学・難関私立大学への進学者の増加・外部機関の客観的学力診断テストや学校教育自己診断によるスコアの向上
計画名	21世紀型の新しい学校！計画 volume. 4

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 グローバル時代に対応する教育システムの開発</p> <p>(2) ロジカル・クリティカルシンキングの理解・実践</p> <p>ア スキルを学ぶための思考ツールの開発を行う。</p> <p>イ 授業方法として、ディベートやプレゼンなどを行う。</p> <p>3 進路・生徒指導の強化</p> <p>(1) 進路実現のために必要なシステムの開発</p> <p>イ・ウ 国内の国際系大学、海外大学への進学システムを構築する。</p>
事業目標	<p>平成28年度よりスタートした「国際科（グローバル科）」では、特に高校2年次の「総合的な学習の時間」において、海外大学進学へ向け、世界の最先端の教育を行うことが必須となる。方法としては以下のとおりである。</p> <p>① 最先端のActive Learningが実施できる教室の設定。</p> <p>② Design ThinkingやTOK(Theory of Knowledge)などを基盤にした新しいカリキュラムの構築。</p> <p>③ 上記②を実施するための指導法・研修体制の確立。</p> <p>この取り組みをまずは本校の国際科・普通科に、そして大阪府全体に還元できるようにパッケージ化する。</p>
整備した 設備・物品	<p>EVA ブロック（椅子）30脚⇒ウチダワークテーブルIP-26545FN型 24台</p> <p>wivia(ルーター)一式ウチダMfi7/FM-26533脚、教育素材EVATMO別製40個、</p> <p>日本ファイリング複式書架用木製側板10枚</p> <p>日本ファイリング可動式展示架3台</p> <p>ウチダUL-35スツール三日月型Φ900ビニールレザー製9台</p> <p>ウチダUL-34スツール丸型Φ900ビニールレザー製1台</p> <p>プロジェクター(CP-AW3003J)⇒日本ファイリング窓下書架単式3段4連2台</p> <p>インフィル部材費一式日本ファイリング窓下PCデスク5人用1台</p> <p>日本ファイリング窓下閲覧机4人用仕切り付1台</p>
取組みの 主担・実施者	<p>校長・教頭・首席を中心に、プロジェクトチームを立ち上げる。</p> <p>※ 「骨太英語」プロジェクトチームと密接に関係する「グローバル人材育成チーム」を立ち上げ、学年・教科横断的な組織を構築する。</p>

<p>本年度の 取組内容</p>	<p>Y 高2時グローバル科のみで実施の、「総合的な学習の時間」を全学年に広げるための下地作りができた。次年度（令和2年度）は2学年全クラスで総合的な探究の時間の先取りを行うこととなる。</p> <p>Y SETの実践内容は英語科教員に引き継がれ、骨太英語や創造英語という科目では、SETと同じとはいかないまでも、ほぼ同内容の授業を実践することができている。今後は英語のみならず、他の教科で導入に向け、積極的に意見交換を進めていく。</p> <p>Y 引き続き、双方向性のある授業展開のカリキュラム・教材の開発を推進する。教員個人の取組みを教科全体で考える体制に移行できるよう働きかけをしていく。</p> <p>Y 改修した図書室が更なる効果を発揮できるよう、実践内容を引き継いでいく。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>n 国公立大学への現役合格者： 平成27年度38名→平成28年度45名に増やす。</p> <p>n 難関私立大学の現役合格者： 平成27年度260名→平成28年度280名に増やす。</p> <p>n 学校教育自己診断（教員）： 教員同士の信頼関係…平成26年度35%→平成28年度70%に増やす。</p> <p>n 海外トップ大学への現役合格： 開校以来0名→平成28年度1名に増やす。（トップ校以外を+2名）</p>
<p>自己評価</p>	<p>n 国公立大学への現役合格者： 平成29年度48名→平成30年度37名……………（△）</p> <p>n 難関私立大学の現役合格者： 平成29年度210名→平成30年度264名……………（◎）</p> <p>n 学校教育自己診断（教員）： 平成29年度46.7%→平成30年度55.0%……………（◎）</p> <p>n 海外トップ大学への現役合格： 平成29年度2名→平成30年度1名……………（△）</p> <p>注）トップ大学については様々な指標があり、昨年度、今年度ともオーストラリアの大学である。</p> <p>Y 作成した「箕面メソッド」を年間通して実施できた。</p> <p>Y 改修した図書室では、今まで以上に双方向性のある授業を展開することができている。</p> <p>Y 英語科だけでなく、国語・地歴公民・家庭・保健体育・情報などでも授業実施（実証実験）できた。</p> <p>Y カリキュラム開発は、教科で考える土壌ができ、若手教員を中心に具体的な開発が進んでいる。</p>
<p>事業のまとめ</p>	<p>生徒の意識が、やれば出来るという前向きな気持ちに変化している。特にグローバル科1期生において多くの海外進学者が生まれたことは、下級生にとって自分たちにも出来るという自信や、先輩のように輝きたいという意欲をもたらした。</p> <p>自分たちにもできるという自己肯定感は、生徒の自信を回復させるものであり、グローバル科生徒の変容は、普通科生徒に好影響を与え、グローバル科には負けないぞという前向きな姿勢で日々の学習に臨み、海外短期留学の選考テストでグローバル科に混ざって、何人も普通科の生徒が選考されているという実績が出ている。</p> <p>しかし、確実に右肩上がりの数字を出していくためには、受験勉強だけを頑張るのではなく、入学当初からの授業に対する真摯な姿勢と家庭学習習慣の早期確立が必要であることが改めて確認できた。国公立大学や海外トップ大学への合格者数を増やしていくためにも、1年入学当初から目的意識を明確にして、日々の学習に取り組んでいくように指導し、家庭学習に取り組むためのスタミナをつけていくようにする。</p> <p>そのための一つの方策として、海外大学説明会にOB・OGを招き、合格までのプロセスを先輩から直接聞くようにしている。</p>